

# 地震予知は「できます。」 J研

- ◎私達は25年の地震研究で地震予知＝電磁観測の経験と実績がいっぱい！
- ・直下型の地震を予知できます。ただし、電磁的な観測網の敷設と、解析システムの設置をお願いします。
  - ・トラフの地震は、別な観測網と解析システムが必要です。
  - ・どちらも、震度6以上で確率90%以上を実現できます。
  - ・卓越した技術(理論とメカニズム解析実績)を持っています。

# JYAN研(Danger News)の紹介

- ・阪神大震災で、地震後の救助は困難な事から、地震予知の研究開始
- ・電磁的な観測にHAM1級の全技術投入、地震と電磁気の関係を調査
- ・1519の前兆報告から約60件の電磁的前兆を全て実験で確認！
- ・受信可能な全電波を、アマチュア無線機器を活用して観測と実験！
- ・電磁的観測や観測装置開発に15年、地震観測装置を完成させた！
- ・CQ誌2009年4月・5月号で地震予知の研究仲間を募りJYAN研究会(地震予知Amateur Net)結成、2010年2月大分県地震観測網を発足
- ・2010年5月から観測網を広げ12年間で電磁現象新発見5種類の実績
- ・短波帯の**広域観測網**と**FM観測網**と**アース観測網**の3種類で観測継続
- ・2019-9月日本地震学会で電磁予知理論とメカニズムを世界初で発表
- ・JYAN研会長 JH6ARA國廣秀光 観測網約50局(研究協力者約400名)

# JYAN研究会経歴

## ◎ JYAN(地震予知アマチュアネット)研究会の地震電磁波研究と活動記録の経歴紹介

- ・1995年1月17日 阪神淡路大震災発生 地震予知の必要性を痛感して電磁波観測による地震予知の研究を始めた。この間あらゆる周波数の電波で地震ノイズや地震での変化等を観測し、ハム局の経験などを全て実験して確認した。
- ・2007年 5月 災害情報学会、日本地震学会などに入会、その後、日本地球惑星科学連合学会入会
- ・2009年 5月 ハムの月刊誌「CQ」で4月・5月にて地震予知の研究会員を募集、15名でJYAN研究会発足
- ・2009年10月 日本地震学会(京都大学)で地震電磁波の観測方法など、新監視方式などを発表紹介
- ・2011年10月 日本地震学会(静岡)で地震に関する電磁気などの発生原因と異常観測理論を発表
- ・2012年 8月 東京ビッグサイトのハムフェアに出展をしました(この年から、毎年展示に参加～連続6回計7回)
- ・2013年 7月7日 JYAN大分ネット第2回総会で研修会 10月2日 産経新聞夕刊「1面トップ」でJYAN研紹介
- ・2014年 3月14日 伊予灘で地震発生全面記録 12月25／26日 日本地震予知学会(電通大)で2項発表
- ・2015年 5月25日～26日 JGUの連合学会大会(幕張)でFM電磁波観測による潮汐同期等の2項を発表
- ・2016年4月14&16日 熊本地震でM7クラスが2回発生する事を観測で予知できたのはJYAN研のみでした！
- ・2016年12月5日 日本地震予知学会のニュースレター第3号に2Pで当JYAN研の研究活動が紹介されました。
- ・2017年3月5日 西日本ハムフェアで熊本の観測状況講演 同年5月26日JGU学会大会で熊本地震発表
- ・2017年6月8日 産経新聞にJYAN研が大きく紹介されました。月刊誌「CQ」9月号に4PでJYAN研活動が紹介
- ・2017年10月25日 日本地震学会(鹿児島市)で熊本地震での電磁気を観測する地震観測成果を詳しく発表しました。
- ・2017年12月25日 日本地震予知学会で熊本地震での地震観測状況などを講演したいへん好評でした。
- ・2018年9月23日 総務省主催異能(イノ)ベーションで東京に招待され、プレゼンテーションにて発表しました。
- ・2019年6月20日 CQ誌7月号の別冊で、地震研究による新しい地震対策が掲載されました。
- ・2019年9月18日 日本地震学会(京都大学)にて「地震予知の理論とメカニズム」を発表して注目されました。
- ・2019年12月25日 日本地震予知学会(東海大学)にて上記を講演で発表しました。ビデオ記録もご覧下さい。  
学会発表及び講演 日本地震学会6回、日本地震予知学会5回、JGpU5回&講演24回等(他に防災講演会有力)  
記事=CQ7回新聞4回 観測網は全国で50局が(200波)を観測中！東京晴海のハムフェアは6年連続合計7回  
地震予知アマチュアネット(大分県ネット、地震前兆ノイズ研究会、JYAN会員ML等400名超・大分県国東市)  
JYAN研究会＆地震予測観測網等々 会長 JH6ARA 國廣秀光

JYAN研究会(旧前)

<http://ara.jyan.biz/>  
<http://jyan.biz/> 元

地震予知安全Net

<http://jk.jyan.biz/>

地震電磁波研究開発

<http://nx.jyan.biz/>

地震予知研究所(前)

[http://www.oct-](http://www.oct-net.ne.jp/jh6ara/)  
[http://www.oct-](http://www.oct-net.ne.jp/jh6ara/)

研究会員は全国に  
ML等約400名

観測網3種50局

<http://ai.jyan.biz/>

旧講演発表サイト

[http://jh6ara.jyan.](http://jh6ara.jyan.biz/)  
[http://jh6ara.jyan.](http://jh6ara.jyan.biz/)

ブログ&PR

<http://pr.jyan.jp/>

# 地震電磁観測 現用機RL



試作2号機  
表五

ANTと電源、LANケーブルを繋ぐと全国ネットのサーバーに接続し、4cHの観測を開始します。  
(事前設定済)

[ラジオロガー  
V3]



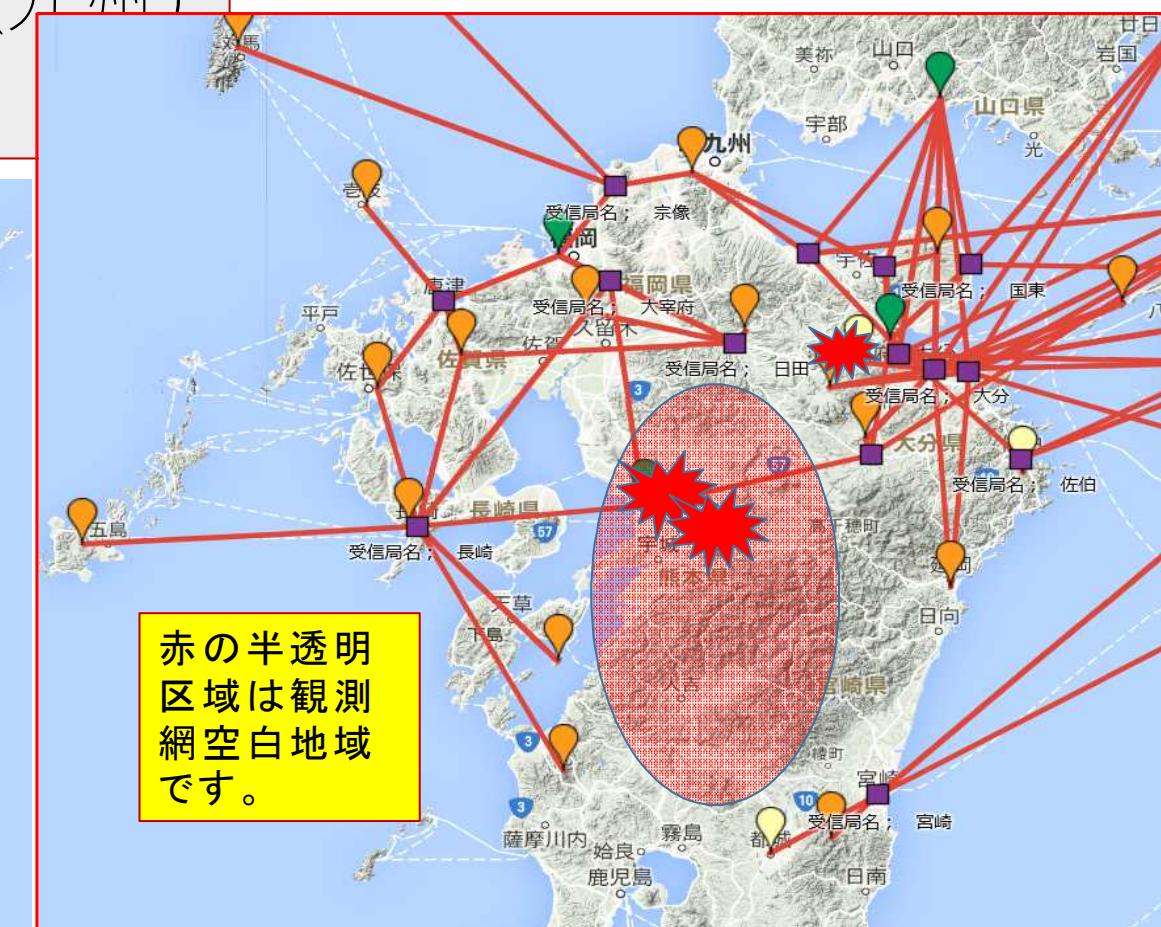
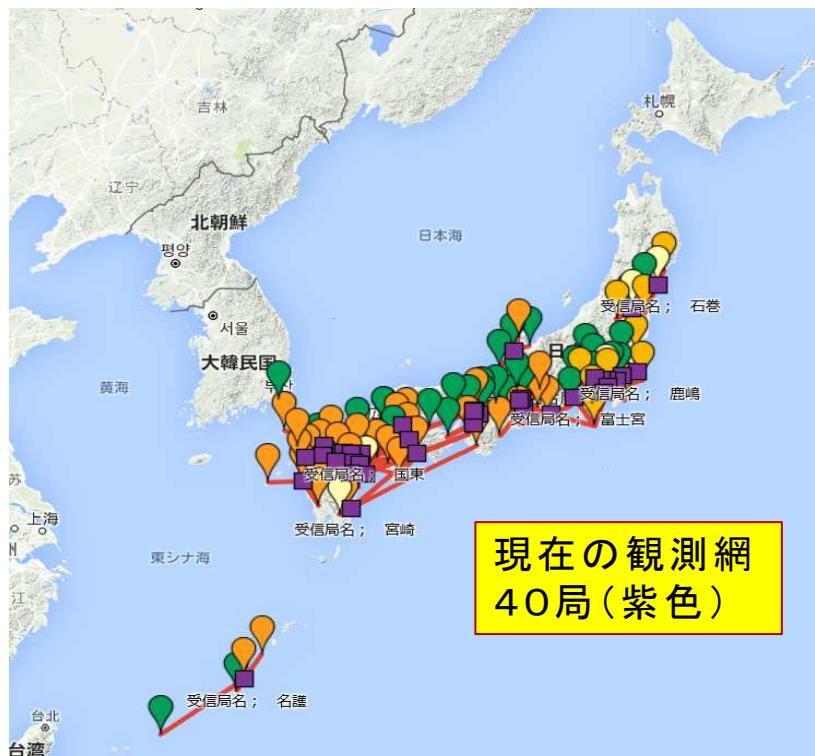
今度は・・・・

最先端の観測技術  
に新発想のIT技術  
地震観測専用の  
◎電磁気地震計と  
◎観測システムを  
試作中です。

21年の地震研究  
50年の無線技術  
10年の学会研修  
観測の記録10年

これらが融合して  
世界最先端の  
**地震観測システム**  
ができるのです。

# 現観測局配置図(九州) 「熊本県のみ無し」



# 電磁波観測装置と無線機群！

## 輸入の高級スペアナやSDR等＝プロ級



上は、無線の送受信機群  
オールバンド全モードで  
ハンディ機を含めると約30台  
観測系は専用受信機8台  
パソコン装置5台が稼働中！  
貸出し装置は23台他多数有



下は（アース抵抗）  
スペアナ装置  
オシロスコープ  
三種の神器等の  
必要計器は殆どある。  
プロ級の研究室だ。

左の装置群は  
これ迄地震観測に  
利用した装置群！  
しかし  
これからは・・・  
I T (情報技術)  
A I (人工知能)  
A R (拡張現実)  
等のテクノロジー  
を活用した機器の  
開発が、世界を  
リードします。

# JYAN研究会

- ・産経新聞(10.2日)
- ・夕刊「1面トップ」に
- ・掲載されました。
- ・2013年10月2日  
「Web版」msn  
産経も見られます。

その他  
各種新聞や雑誌に載りました。

平成25年(2013)10月2日(水) THE SANKEI SHIMBUN 06-6633-9357 http://o-sankei-hanbai.com/07008 購読のお申し込み 0120-347-333 0120-347-334 http://www.sankei.co.jp/reader 大阪ガス ガスくん ガスくん

10月2日(水)

FM電波異常

淡路島地震

1カ月前から電波異常

民間団体 学会で発表へ

遷御 いよいよ今夜 新正殿飾り付け

下請け悲鳴「8%」追い打ち

@深層

中小いいじめ 許さぬ 消費税転嫁 Gメン

地震に関する総て

地震 地球 宇宙研究  
電磁気やノイズの研究

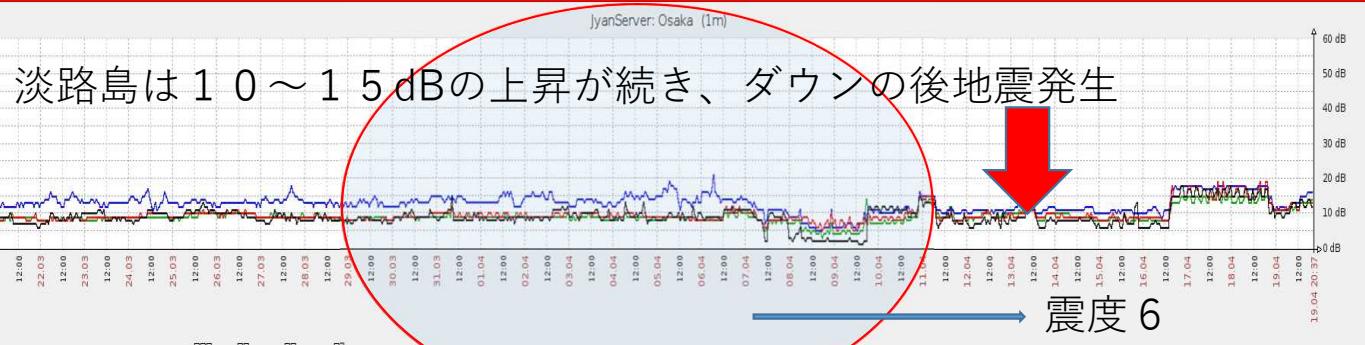
地球と太陽系の研究  
引力や潮汐の研究  
電磁波伝搬の研究  
気象変化の研究  
電波伝搬の研究

低周波・中波・短波  
FM波、V/U波観測  
Micro等異常伝播観測

各種記録データ解析  
各種現象のデータ照合

新現象の発見5種  
地震と電磁変化関係  
各発見等の証明発表  
継続 25年間

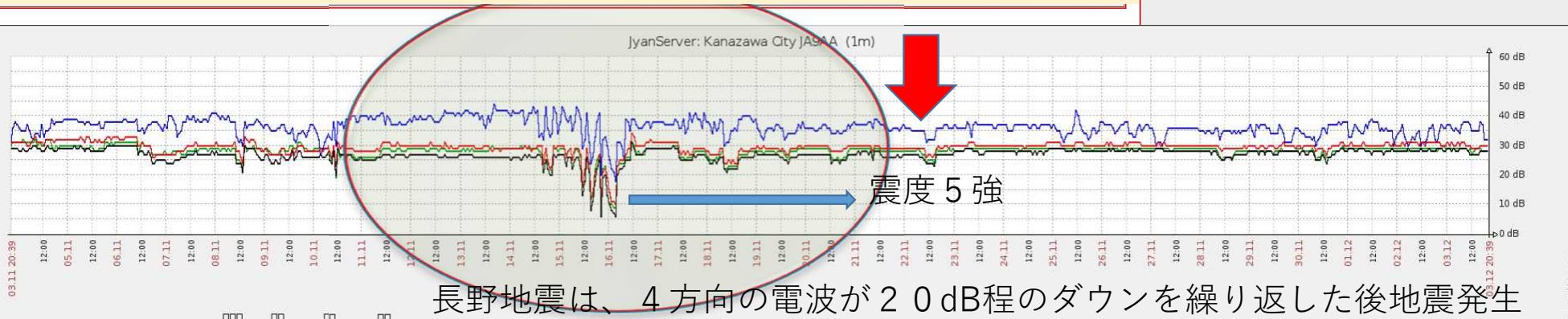
# 地震の観測例 (どちらも1週間後に地震発生) 淡路島地震と長野地震



淡路地震は、青の姫路電波がダウン、全部もダウンの後1週間後地震発生

淡路島は  
レベルアップ 当観測は  
(逆断層型) = これって  
(2013年4月) 涙い

長野地震は  
レベルダウン  
(正断層型) = これも涙い  
(2014年11月)



地震予知の3要素 摆れの大きさで震度、 摆れのパターンでいつ、 摆れの方向Checkで場所

Data from震電網. Generated in 6.05 sec.

# 資料

## HAMの「社会貢献」 月刊CQ誌に5回掲載！

ハムなら地震予測ができる！ 2009年4月&5月号で、地震研究と観測技術や理論等を展開しました。！



「どうして地震の前にノイズができるの？」  
に実例を示して優しく解説しています。4P



電磁気観測による「地震予知」の根本原理が次第に明確になってきました。今月号は、地震を予測し、命の安全確保と予測観測の活用を薦めています。(5Pでの解説)



なぜ？電磁波が揺らぐの？ に筆者が観測データを示し、根本的な理論を展開して詳しく解説しています。

また、特集では「JYAN研究会」の各局の活動が「9P」の圧巻で紹介されました！ 読み応えがあります。  
2017年6月のCQ誌には4Pで紹介、2019年6月のCQ誌には別冊にてJYAN研の新発見が掲載されました。

最初の掲載は、  
2009年  
4／5月号です。  
次が2010年の2月号で、多くの何故？や、理論に答えていました。

2013年10月号Amateur無線家の社会貢献と言う内容で掲載されました。

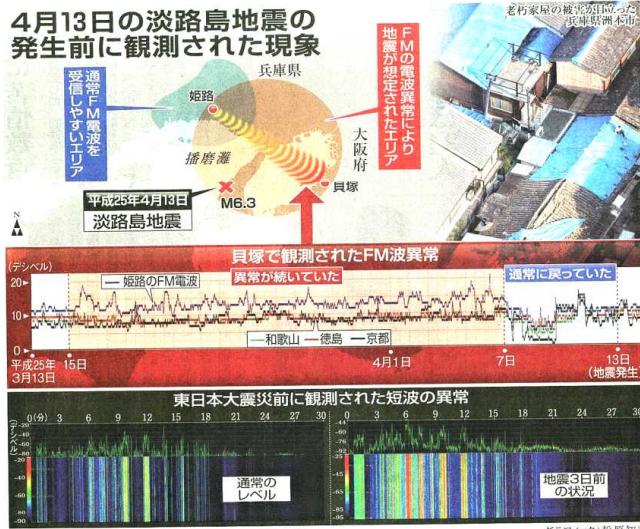
2014年11月号は9Pの圧巻です。  
研究仲間も多く出ました。

2017年6月  
2019年6月  
にも掲載されました。7回！

# 資料

# JYAN研究会が全国紙に！ 見開き半分

9 特集 4版 平成25年(2013年)10月23日 水曜日 産業労働新聞夕刊 第二種郵便物認可



## 防災耳寄り情報

帰宅困難時やガレキ道で活躍

平成23年3月11日の東日本大震災の際、東京都内では電車など交通網がまひし、多くの帰宅困難者が発生した。この際、活躍したのが自転車。都内の自転車店には客が殺



い守  
のめ  
ち!

（北埼理）地図のF.M波強度観測して、地図上に強度の等高線を描いて、21時間ごとに強度観測し、21回のM波電波強度測定を行なう。その結果、地図上にM波強度の等高線を描く。この等高線は、地図上に示す地図上の各点のM波強度を示す。この等高線を用いて、M波強度の等高線を示す。この等高線を用いて、M波強度の等高線を示す。

恐れすぎず身近な理解を

#### 「桂樹山左に上る往機」の危険性

— 1 —

# F M 波観測誰でも可能

取り上げられた回数は  
新聞  
3回

テレビ  
1回

月刊誌  
5回

週刊誌  
1回

講演  
7回以上

地震観測は  
電磁波を！  
が、定着し  
ました。か  
なり有名

# 私は 地震学術 3 学会員です

- ・日本地震学会、日本地震予知学会、日本地球惑星科学連合学会の学会員です。
- ・地震予知学会は発足時の検討会委員を勤めました。 (17名)
- ・JYAN研究会(地震予知アマチュアネット)と地震予測観測網を主宰しています。
- ・J Y A N 研究会のHP閲覧者が増え、地震予測の配信希望者が増えています。
- ・研究会の会員 (ML)は約400人で、常時観測しているNet会員は約50局です。



上 地震予知研究センターの  
センター長 長尾年泰教授  
○地震予知関係コメンテーター  
○日本地震予知学会の会長  
(東大出身)

私の研究室を見学して、技術の高さを賞賛、論文共著の申出あり。  
日本地震予知学会早川会長からも  
論文共著の申し出がありました。  
只今、論文執筆中

- ①JYAN研究会のホームページです。研究会概要が、掲載されています。
- ◎地震予知研究所の観測情報が人気でした。(確率が良好)
- ②地震予測観測と電磁波観測者向けのHPで技術情報満載です。
- ③地震予知安全Netや新「JYAN研」は、研究会のHPです。ボランティア団体なので飾り気はありません。最新技術は
- <http://ara.jyan.biz/>

# JYAN研究会 HP 地震予知安全Net HP

The screenshot shows the homepage of the JYAN Research Institute. At the top, there's a banner with three people in business attire shaking hands over a document, with text about seismic defense and research. To the right is a sidebar with links for '配信サービス' (Delivery Services), '地震情報' (Earthquake Information) (circled in red), '観測局情報' (Observation Station Information), and 'HAMIC受付窓口' (HAMIC Reception Counter). Below the banner is a main content area with a red header '地震予知安全ネット' containing text about sending earthquake information to observation stations and a call for cooperation. A large blue circle highlights the '地震予知安全Net' link in the sidebar. The central part of the page features a graph showing seismic wave amplitude over time, with a timestamp '2015年(平成27年度)からの方針について' (Guidelines from 2015 (Heisei 27th year)). The right side of the page has a sidebar with various links: '地震予報' (Earthquake Forecast), '情報指針' (Information Guideline), 'サービス' (Service), '観測概要' (Observation Summary), '組織概要' (Organization Summary), '観測募集' (Observation Recruitment), 'アクセス' (Access), and '問い合わせ' (Inquiry). The overall theme is professional and technical.

①左はJYAN研究会  
(公開中です)  
②地震予測観測網  
(現電磁波観測研へ)  
左下は  
③地震予知安全Net

# 結 論

- 地震予知の理論とメカニズムを日本地震学会(京都大学2019-9月)で発表、2019-12月には日本地震予知学会で発表 = 世界初の快挙です。
- 電磁的に観測すれば、完全に「**予知可能**」 = **当然の理論**なのです！  
(熊本地震も、2回来るのが判ったのはJYAN研のみ！で、次の地震も時間単位で判りました。)
- 南海トラフ等の海洋地震も専用の観測網を置けば予知できます。
- 全国に電磁地震計を 600ヶ所以上の敷設を想定(地震計は3,900ヶ所有り)
- 直下型とトラフの観測網&観測システムの建設資金が必要です。
- 協力や出資して戴ける方には、会社名 = Danger News JYAN研他、について出資者と命名権を協議する事が可能です。